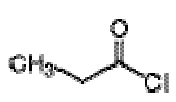


## 微生物を用いる変異原性試験結果報告書

### 1. 一般的事項

新規化学物質の名称 (IUPAC 命名法による)	プロパノイルクロリド		
別 名	/		
構造式又は示性式 (いずれも不明な場合はその製法の概要)			
試験に供した新規化学物質の純度	99.9% (GC)	試験に供した新規化学物質の Lot No.	N7R5A
不純物の名称及び濃度	/		
CAS 番号	79-03-8	蒸気圧	106 hPa (20°C) *
分子量	92.52	分配係数	0.02*
融 点	-94°C*	常温における性状	液体(比重: 1.06)
沸 点	80°C*		
安定性	適切な条件下においては安定		
溶媒に対する溶解度等	溶媒	溶解度	溶媒中での安定性
	水	/	水との接触により分解し、有毒なガスを発生する
	DMSO	50 mg/mL で不溶	発熱・発泡あり
	アセトン	100 mg/mL で溶解	時間の経過とともに褐色に変化
	1,4-ジオキサン	100 mg/mL で溶解	発熱、ガスの発生等の反応性なし

(備考) 上記被験物質情報は、製造元からの情報及び\*: 独立行政法人製品評価技術基盤機構化学物質総合情報システム (CHRIP) の情報による。なお、溶解度及び溶媒中の安定性については、株式会社ボゾリサーチセンターで実施した溶解度試験の結果である。

## 2. 試験に用いた菌株

菌株名	入手先	入手年月日
<i>Salmonella typhimurium</i> TA98	国立医薬品食品衛生研究所	1997年10月9日
<i>Salmonella typhimurium</i> TA100	国立医薬品食品衛生研究所	1997年10月9日
<i>Salmonella typhimurium</i> TA1535	国立医薬品食品衛生研究所	1997年10月9日
<i>Salmonella typhimurium</i> TA1537	国立医薬品食品衛生研究所	1997年10月9日
<i>Escherichia coli</i> WP2 <i>uvrA</i>	独立行政法人 製品評価技術基盤機構	2011年10月20日

## 3. S9 Mix

### (1) S9の入手方法等

自製・購入の別	1.自製 ② 購入（製造元：キッコーマンバイオケミファ株式会社）
製造年月日	2015年11月27日製造
購入の場合 Lot No.	RAA201511B
保存温度	-86.5~-70.6°C (保存期間：2015年12月17日~2016年3月8日)

### (2) S9の調製方法

使用動物		誘導物質	
種・系統	ラット・SD系	名称	PB& 5,6-BF
性	雄	投与方法	腹腔内投与
週齢	7週齢	投与期間及び 投与量 (mg/kg 体重)	PB4日間連続投与: 30+60+60+60(mg/kg 体重) PB投与3日目BF投与: 80(mg/kg 体重)
体重	197-252 g		

### (3) S9Mixの組成

成分	S9Mix 1mL中の量	成分	S9Mix 1mL中の量
S9	0.1 mL	NADPH	4 μmol
MgCl <sub>2</sub>	8 μmol	NADH	4 μmol
KCl	33 μmol	Na-リン酸緩衝液	100 μmol
グルコース-6-リン酸	5 μmol	その他 ( )	

#### 4. 被験物質溶液の調製

使用溶媒	名称	製造元	Lot No.	グレード	純度(%)
	1,4-ジオキサン	和光純薬工業株式会社	ECJ2496	JIS規格 試薬特級	99.5%以上
溶媒選択の理由	<p>本被験物質は、水との接触により分解し、有毒なガスを発生するため、DMSO、アセトンについて溶解性試験を実施した。その結果、DMSOの50 mg/mLで溶解せず、アセトンに100 mg/mLで溶解したため、アセトンを溶媒として調製した。しかし、アセトンは時間の経過とともに褐色に色調変化が見られたため、1,4-ジオキサンについて溶解性試験を追加した。その結果、100 mg/mLで溶解し、発熱、ガスの発生等の反応性も認められなかったため、1,4-ジオキサンを溶媒として試験を実施した。なお、被験液の調製には、モレキュラシーブス 4A 1/16（和光純薬工業株式会社； Lot No. HWL7297）で脱水した1,4-ジオキサンを使用した。</p>				
被験物質溶液の性状	<input checked="" type="radio"/> 溶解 <input type="radio"/> 懸濁 <input type="radio"/> その他				
被験物質が難溶性の場合における懸濁等の方法					
溶液の調製から使用までの保存時間と温度	用時調製・室温				
純度換算の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無				

#### 5. 前培養の条件

##### (1) 条件

ニュートリエントブロス	名称	製造元	Lot No.
	Nutrient Broth No.2	OXOID LTD.	1239615
前培養時間	9時間		
培養容器(形状・容器)	L字管・48mL		
培養液量	10 mL	接種菌量	<i>S. typhimurium</i> 株 20 µL <i>E. coli</i> 株 10 µL

##### (2) 前培養終了時の生菌数等

菌株名		塩基対置換型			フレームシフト型	
		TA100	TA1535	WP2 <i>uvrA</i>	TA98	TA1537
生菌数 (×10 <sup>9</sup> /mL)	用量設定試験	3.82	4.50	8.73	4.79	3.70
	本試験	4.15	4.74	8.40	6.34	3.69
測定方法		① O.D.値より換算    ② 段階希釈法    ③ その他				

6. 最小グルコース寒天平板培地

自製・購入の別	1. 自製 (2.) 購入 (購入元 極東製薬工業株式会社)
製造年月日	2016年2月9日製造
購入の場合の Lot No.	DZLH2901
使用寒天の名称・製造・Lot No.	OXOID AGAR No.1・OXOID LTD.・Lot No. 1309432

7. 試験の方法

(1) 試験方法とその選択理由

採用した試験方法	(1.) プレインキュベーション法 2. プレート法 3. その他
その他の場合は その選択理由	

(2) 試験条件

組 成	菌懸濁液	0.1 mL
	被験物質溶液	0.05 mL
	Na-リン酸緩衝液 (直接法による場合)	0.5 mL
	S9Mix (代謝活性化法による場合)	0.5 mL
	トップアガー	2.0 mL
プレインキュベーション	温度	37°C
	時間	20 分間
インキュベーション	温度	37°C
	時間	48 時間

8. コロニー計測の方法

計測方法	1. マニュアル計測 (2.) 機器計測
補正の有無	1. 無 (2.) 有 (補正の方法 面積補正:補正值 1.21)

## 9. 試験の結果

- (1) 試験の結果は別表による。
- (2) 結果の判定

判 定	陽性	(陰性)
<p>判定の理由</p> <p>用量設定試験の結果を別表 1 に、本試験の結果を別表 2 に示した。なお、図 1~10 は別表 2 より作成した。また、当該試験の参考データとして参照した背景データを Attached Data として添付した。</p> <p>用量設定試験及び本試験ともに代謝活性化の有無にかかわらず、いずれの菌株においても陰性対照値の 2 倍以上となる復帰変異コロニー数の増加は認められず、用量反応性も認められなかった。</p> <p>一方、陽性対照群では陰性対照群と比較して 2 倍以上となる復帰変異コロニー数の増加を示したことから、使用菌株の復帰突然変異誘発物質に対する反応は適切であったことが確認され、試験は適切に実施されたものと考えられた。</p> <p>以上の試験結果より、本試験条件下においてプロパノイルクロリドは、微生物に対する遺伝子突然変異誘発能を有さない（陰性）と判定した。</p>		

### (3) 参考事項

本被験物質によるプレート上の沈殿及び着色は、代謝活性化の有無にかかわらず、いずれの用量においても認められなかった。

菌に対する生育阻害は、代謝活性化の有無にかかわらず、すべての菌株の 2500 µg/plate 以上の用量で認められた。

溶媒の選定にあたり、下記の文献を参照した。

Dorothy M. Maron, John Katzenellenbogen and Bruce N. Ames: COMPATIBILITY OF ORGANIC SOLVENTS WITH THE SALMONELLA/MICROSOME TEST, Mutation Res., 88, pp.343-350, 1981

被験液の調製及び試験操作は、紫外線吸収膜付蛍光灯下で実施した。

(別表1)

## 試験結果表 (用量設定試験)

被験物質の名称：プロパノイルクロリド

No. T-1994

試験実施期間		2016年2月26日 より 2016年2月29日					
代謝活性化系の有無	被験物質の用量 ( $\mu\text{g}/\text{プレート}$ )	復帰変異数(コロニー数/プレート)					
		塩基対置換型			フレームシフト型		
		TA100	TA1535	WP2uvrA	TA98	TA1537	
S9Mix (-)	陰性対照 (1,4-ジメチルピペリジン)	109 111 ( 110 )	5 6 ( 6 )	28 30 ( 29 )	11 13 ( 12 )	8 8 ( 8 )	
	1.22	128 124 ( 126 )	5 3 ( 4 )	27 29 ( 28 )	11 15 ( 13 )	7 10 ( 9 )	
	4.88	140 132 ( 136 )	5 4 ( 5 )	19 23 ( 21 )	10 13 ( 12 )	4 4 ( 4 )	
	19.5	105 126 ( 116 )	4 7 ( 6 )	22 45 ( 34 )	11 15 ( 13 )	6 5 ( 6 )	
	78.1	113 125 ( 119 )	5 5 ( 5 )	38 36 ( 37 )	13 10 ( 12 )	7 7 ( 7 )	
	313	117 119 ( 118 )	4 4 ( 4 )	25 28 ( 27 )	15 10 ( 13 )	8 8 ( 8 )	
	1250	116 137 ( 127 )	4 7 ( 6 )	34 28 ( 31 )	16 17 ( 17 )	12 10 ( 11 )	
	5000	50 * 44 * ( 47 )	0 * 0 * ( 0 )	13 * 15 * ( 14 )	0 * 0 * ( 0 )	0 * 0 * ( 0 )	
	S9Mix (+)	陰性対照 (1,4-ジメチルピペリジン)	145 156 ( 151 )	5 7 ( 6 )	32 36 ( 34 )	20 16 ( 18 )	13 13 ( 13 )
		1.22	143 142 ( 143 )	9 4 ( 7 )	38 34 ( 36 )	18 18 ( 18 )	7 8 ( 8 )
4.88		164 138 ( 151 )	7 7 ( 7 )	27 28 ( 28 )	25 30 ( 28 )	11 11 ( 11 )	
19.5		149 145 ( 147 )	5 6 ( 6 )	21 31 ( 26 )	20 17 ( 19 )	7 8 ( 8 )	
78.1		143 141 ( 142 )	4 5 ( 5 )	35 34 ( 35 )	26 16 ( 21 )	7 8 ( 8 )	
313		131 129 ( 130 )	3 5 ( 4 )	21 39 ( 30 )	22 27 ( 25 )	6 7 ( 7 )	
1250		139 142 ( 141 )	6 7 ( 7 )	28 33 ( 31 )	14 20 ( 17 )	7 7 ( 7 )	
5000		113 * 98 * ( 106 )	8 * 8 * ( 8 )	30 * 30 * ( 30 )	13 * 13 * ( 13 )	8 * 5 * ( 7 )	
陽性対照		名 称	AF-2	SAZ	AF-2	AF-2	ICR-191
		用量 ( $\mu\text{g}/\text{プレート}$ )	0.01	0.5	0.01	0.1	1.0
	コロニー数/プレート	654 645 ( 650 )	222 256 ( 239 )	68 77 ( 73 )	319 420 ( 370 )	1199 828 ( 1014 )	
	名 称	B[a]P	2AA	2AA	B[a]P	B[a]P	
	用量 ( $\mu\text{g}/\text{プレート}$ )	5.0	2.0	10.0	5.0	5.0	
	コロニー数/プレート	755 793 ( 774 )	202 222 ( 212 )	555 530 ( 543 )	347 345 ( 346 )	114 91 ( 103 )	

(備考)

AF-2 : 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド  
 SAZ : アジ化ナトリウム  
 ICR-191 : 2-メトキシ-6-クロロ-9-[3-(2-クロロエチル)アミノプロピルアミノ]アクリジン・2HCl  
 2AA : 2-アミノアントラセン  
 B[a]P : ベンゾ[a]ピレン

\* : 被験物質による生育阻害が認められたことを示す。  
 ( )内は、2枚のプレートの平均値を示す。

(別表2)

## 試験結果表 (本試験)

被験物質の名称： プロパノイルクロリド

No. T-1994

試験実施期間		2016年3月7日 より 2016年3月10日				
代謝活性化系の有無	被験物質の用量 ( $\mu\text{g}/\text{プレート}$ )	復帰変異数(コロニー数/プレート)				
		塩基対置換型			フレームシフト型	
		TA100	TA1535	WP2uvrA	TA98	TA1537
S9Mix (-)	陰性対照 (1,4-ジオキサン)	94 104 ( 99 )	7 15 ( 11 )	28 30 ( 29 )	19 16 ( 18 )	7 9 ( 8 )
	156	107 130 ( 119 )	6 14 ( 10 )	21 33 ( 27 )	16 11 ( 14 )	7 6 ( 7 )
	313	127 118 ( 123 )	18 6 ( 12 )	30 21 ( 26 )	15 12 ( 14 )	7 6 ( 7 )
	625	139 121 ( 130 )	12 9 ( 11 )	19 22 ( 21 )	13 13 ( 13 )	10 6 ( 8 )
	1250	116 137 ( 127 )	18 15 ( 17 )	31 30 ( 31 )	10 18 ( 14 )	11 8 ( 10 )
	2500	56 * 69 * ( 63 )	5 * 1 * ( 3 )	24 * 23 * ( 24 )	17 * 8 * ( 13 )	0 * 0 * ( 0 )
	5000	0 * 0 * ( 0 )	0 * 0 * ( 0 )	0 * 0 * ( 0 )	0 * 0 * ( 0 )	0 * 0 * ( 0 )
	S9Mix (+)	陰性対照 (1,4-ジオキサン)	134 115 ( 125 )	7 8 ( 8 )	31 29 ( 30 )	24 24 ( 24 )
156		135 134 ( 135 )	8 9 ( 9 )	25 29 ( 27 )	27 27 ( 27 )	2 8 ( 5 )
313		143 129 ( 136 )	9 11 ( 10 )	42 31 ( 37 )	19 24 ( 22 )	8 5 ( 7 )
625		104 136 ( 120 )	10 6 ( 8 )	25 33 ( 29 )	25 26 ( 26 )	11 8 ( 10 )
1250		126 138 ( 132 )	8 9 ( 9 )	34 25 ( 30 )	22 23 ( 23 )	9 12 ( 11 )
2500		139 * 122 * ( 131 )	8 * 13 * ( 11 )	34 * 36 * ( 35 )	15 * 11 * ( 13 )	2 * 5 * ( 4 )
5000		67 * 59 * ( 63 )	5 * 10 * ( 8 )	0 * 0 * ( 0 )	0 * 0 * ( 0 )	0 * 0 * ( 0 )
陽性対照		名称	AF-2	SAZ	AF-2	AF-2
	用量 ( $\mu\text{g}/\text{プレート}$ )	0.01	0.5	0.01	0.1	1.0
	コロニー数/プレート	541 503 ( 522 )	223 267 ( 245 )	63 74 ( 69 )	319 339 ( 329 )	891 808 ( 850 )
	名称	B[a]P	2AA	2AA	B[a]P	B[a]P
	用量 ( $\mu\text{g}/\text{プレート}$ )	5.0	2.0	10.0	5.0	5.0
	コロニー数/プレート	1110 1015 ( 1063 )	252 306 ( 279 )	688 632 ( 660 )	363 325 ( 344 )	110 118 ( 114 )

(備考)

AF-2 : 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド

SAZ : アジ化ナトリウム

ICR-191 : 2-メトキシ-6-クロロ-9-[3-(2-クロロエチル)アミノプロピルアミノ]アクリジン・2HCl

2AA : 2-アミノアントラセン

B[a]P : ベンゾ[a]ピレン

\* : 被験物質による生育阻害が認められたことを示す。

( )内は、2枚のプレートの平均値を示す。

図 1

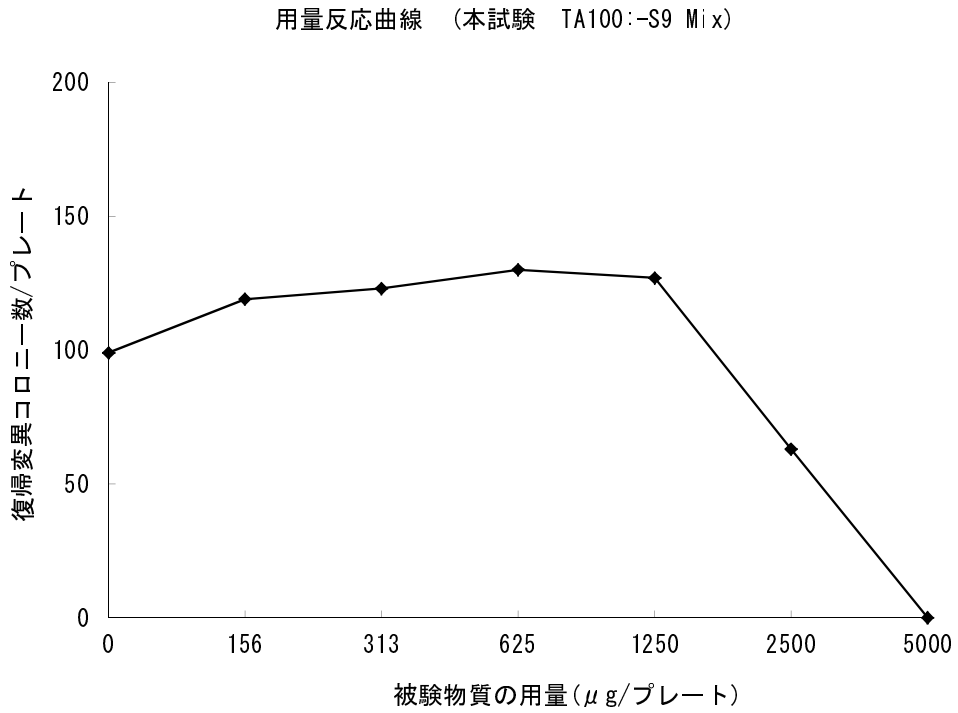


図 2

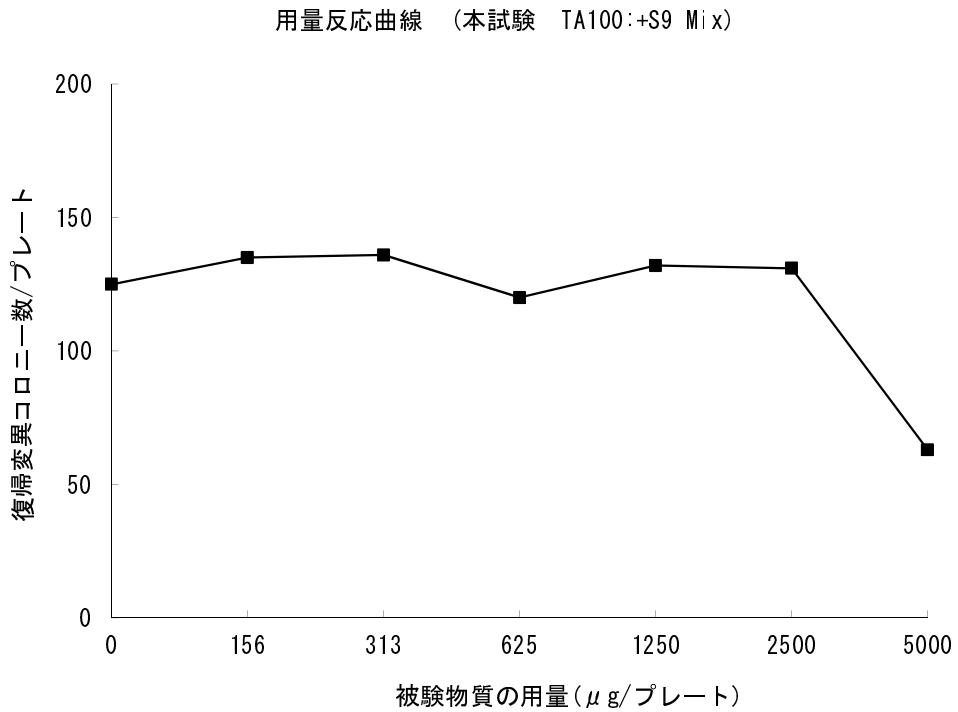




図 3

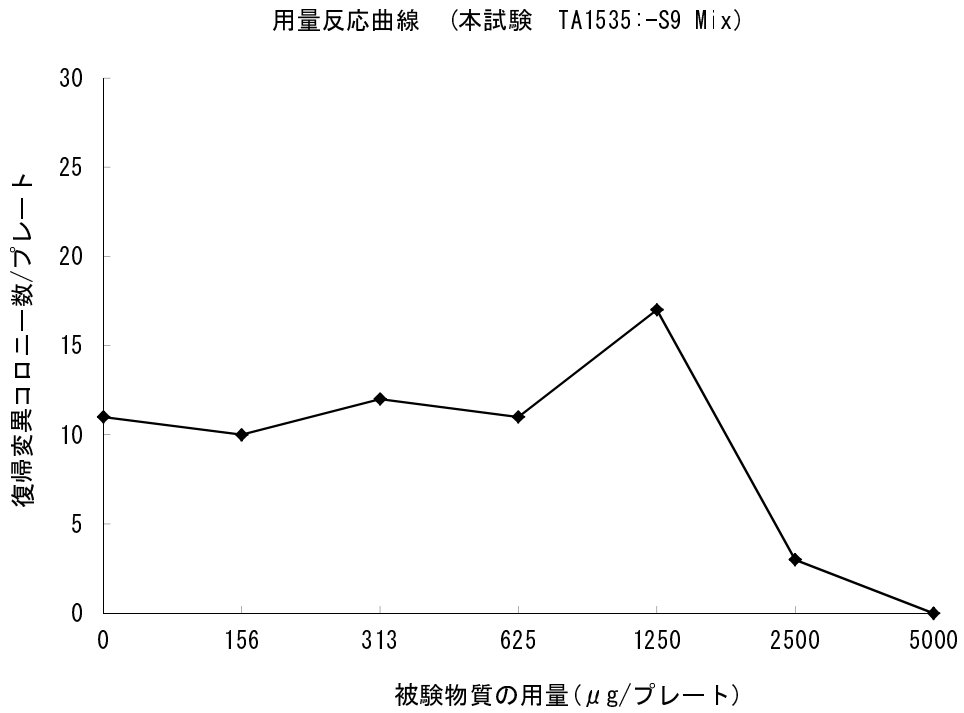


図 4

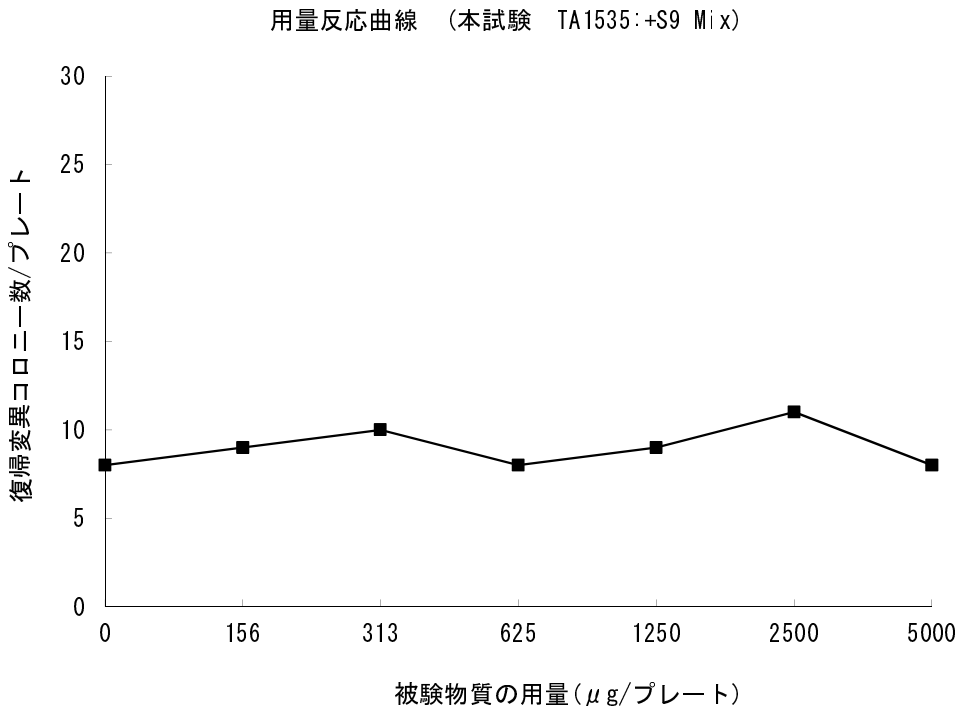


図 5

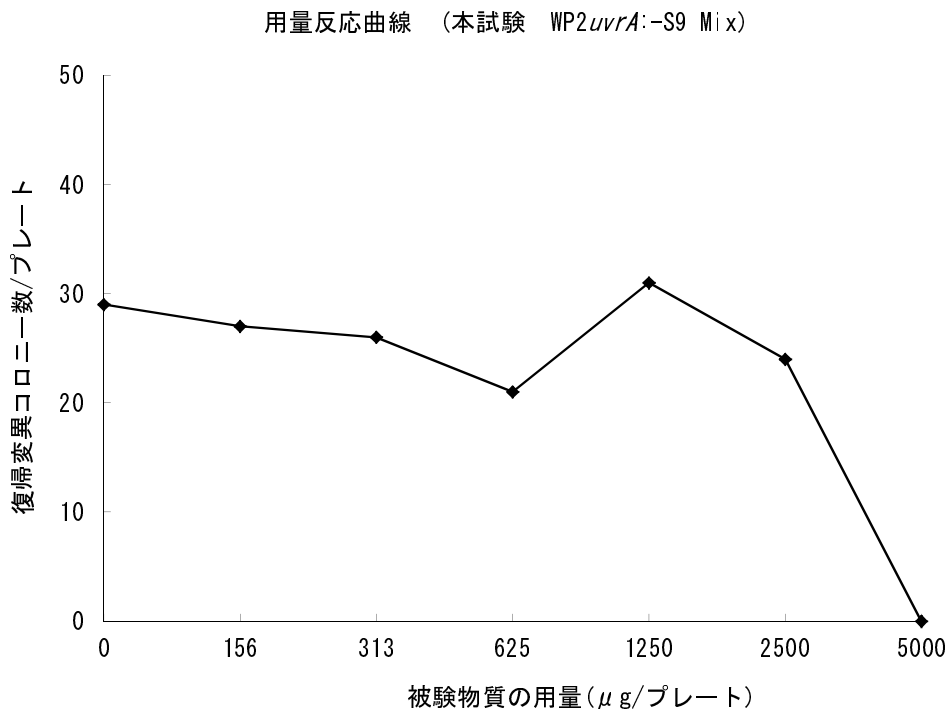


図 6

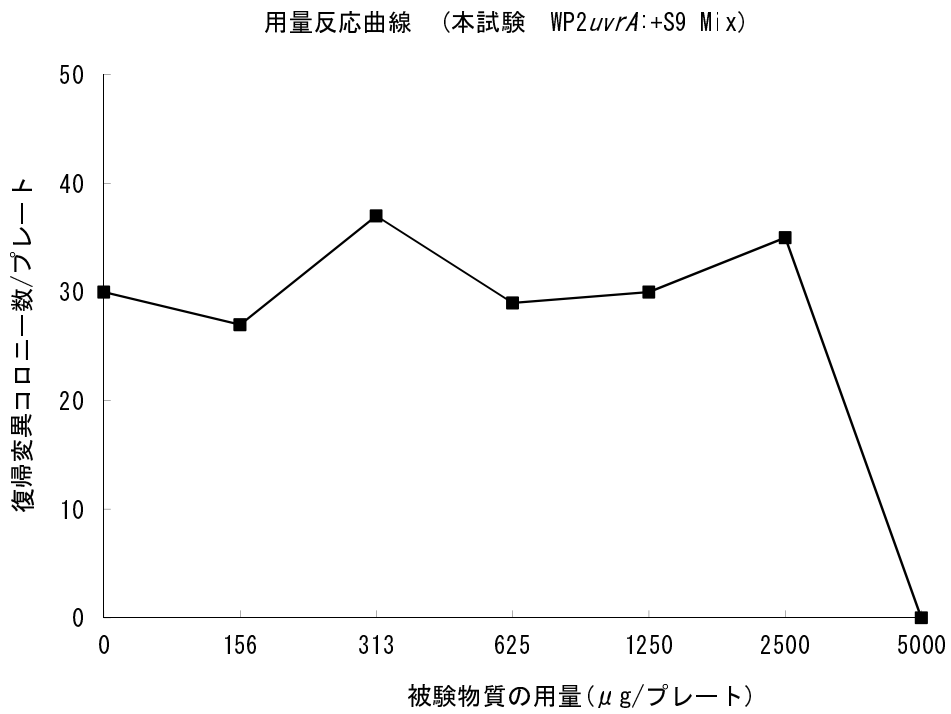


図 7

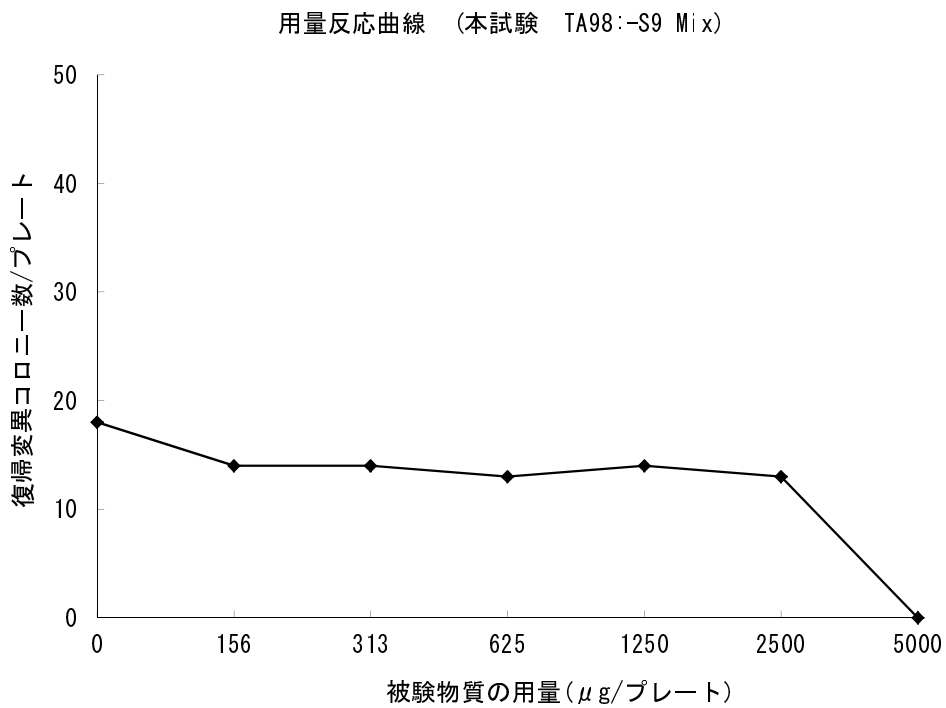


図 8

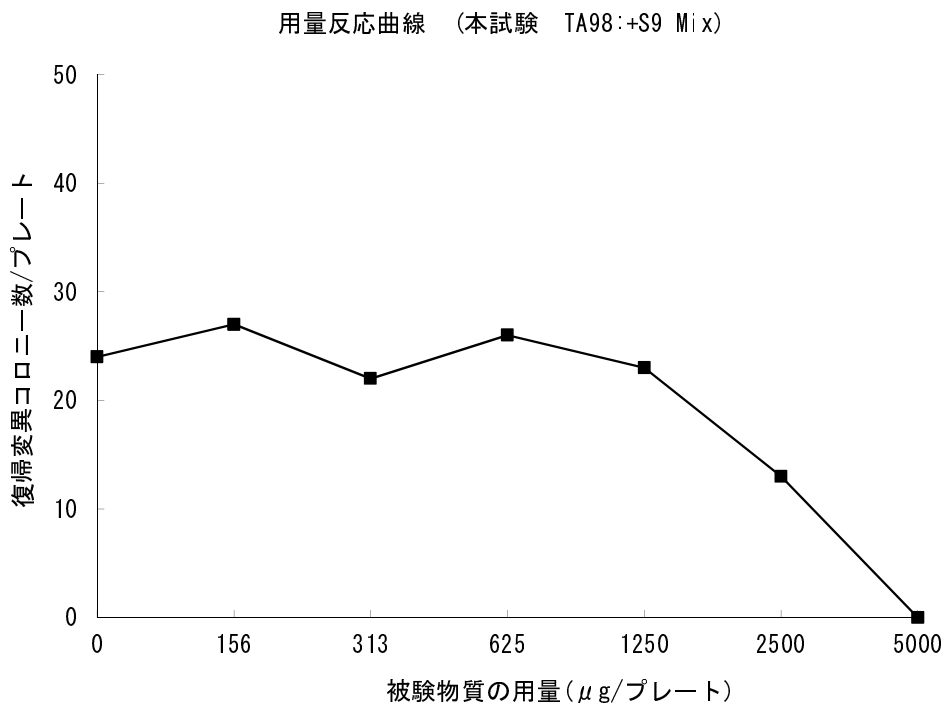


図 9

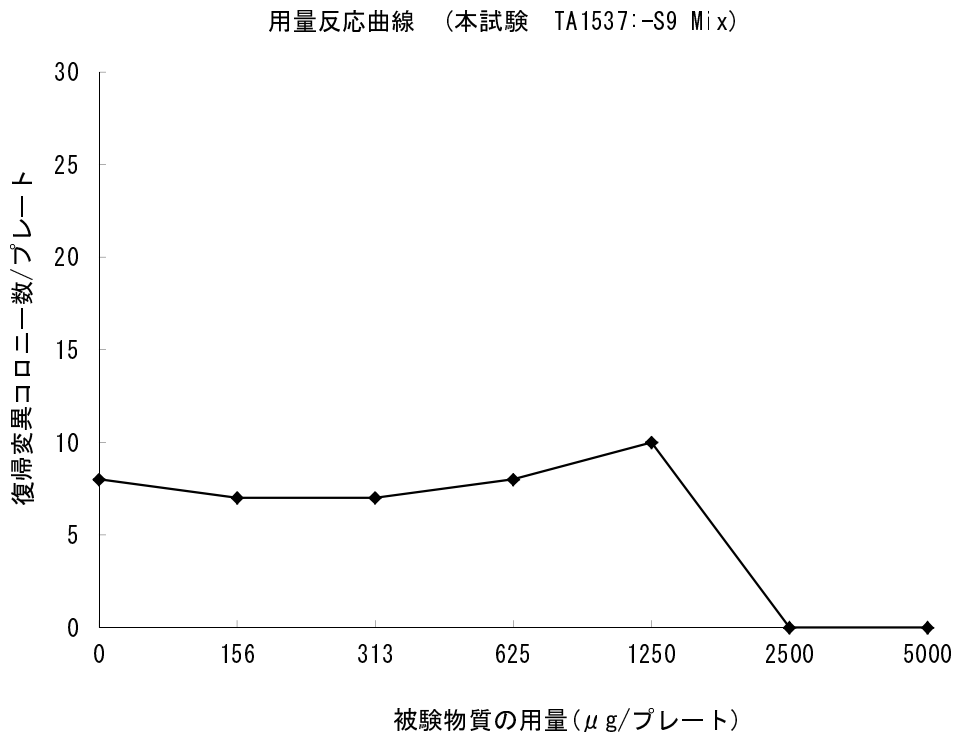


図 10

